

第 109 回取締役会の内容について

IGRいわて銀河鉄道株式会社(代表取締役社長 鈴木敦)では、「第 109 回取締役会」を開催しました。主な内容は、以下のとおりです。

- 【資料 1】 2024 年度事業計画について p. 1～9
- 【資料 2】 2023 年 4 月～2024 年 1 月の輸送概況について p. 10
- 【資料 3】 利用促進及び地域との連携について p. 11～12

※お問い合わせにつきましては、本日 17 : 30 まで受け付けますので、下記担当までご連絡ください。

2024 年度事業計画について

1. 事業運営の基本方針

(1) 基本方針

前年度は、『経営ビジョン(2023～2032)』及び『中期経営計画(2023～2027)』の初年度であり、鉄道事業の安全・安定輸送の確保を第一に、全社一丸となって収支改善に向けた取組を進めるとともに、経営環境の変化を踏まえ、経営資源の配分の最適化を図り、持続可能な経営基盤の構築に取り組みました。

一方、新型コロナウイルス感染症の5類移行により、社会経済活動の正常化や個人消費の回復による鉄道利用の需要回復が期待されたものの、生活様式の変化や沿線人口の減少の進展により、旅客運輸収入は、コロナ禍前の8割程度の回復に留まっています。

加えて、資源・エネルギー価格の上昇、老朽化した施設・設備の取替などにより、引き続き、厳しい経営状況が続くものと見込まれるところです。

こうした状況の中、2024年度においても、『中期経営計画(2023～2027)』に掲げる6つの重点項目を基軸として、計画に掲げる取組を着実に進めることにより、安定した経営や更なる収支改善に取り組んでいきます。

今後も引き続き、安全・安定輸送の確保を図りつつ、持続的な経営が可能となるよう経営改善を強力に進めるとともに、地域と連携し沿線への観光客誘致など交流人口の拡大を図りながら、地域公共交通の維持・活性化と持続可能な地域社会の構築(まちづくり等)に不可欠な鉄道となることを目指していきます。

(2) 2024 年度の主な取組内容 ※ 別添「アクションプラン 2024」参照

① 安全・安定輸送の確保

- ・ 運輸安全マネジメントやリスクマネジメントの強化を図るとともに、警察や消防、地域の皆様等と連携しながら、各種訓練や安全啓発活動を実施し、異常時における対応力・即応力の強化や安全意識の向上を図ります。
- ・ 設備投資計画に基づき計画的かつ効率的に設備投資を進め、鉄道施設の安全性の確保を図ります。

② 利用促進の強化

- ・ 2023年度に提供を開始したリアルタイム運行情報配信システムのブラッシュアップなど、お客さまの生活の足としての利便性向上を図るとともに、域外からの観光客向けのデジタルフリーきっぷなど、利用シーンに即した企画きっぷの造成と併せ、SNSなどを活用し効果的な情報発信をすることにより利用促進を図ります。

③ 地域との協働とにぎわいの創出

- ・ 沿線地域の関係機関と連携・協働し、地域への誘客を拡大するために「歴史街道を歩く～奥州街道～」などの着地型ツアーと「銀河列車」など企画列車の運行をするほか、沿線各種イベントへの積極的な参画や情報発信を行うことにより、マイレール意識を醸成し、地域のにぎわいを創出します。

④ 収支改善に向けた取組の強化

- ・ デジタルチケットの発売等によるDXの推進、業務改善や新規事業等に係る社内公募の実施により、収益力の強化や、業務の効率化・省力化を推進します。
- ・ 維持管理においては、工法の見直しや、レール・マクラギ等の鉄道施設の長寿命化を進めることにより、工事費や維持管理費の低減を図るとともに、遊休資産の有効活用などにより収入の確保に取り組めます。

2. 鉄道輸送に関する計画

(1) 基本方針

2024年3月16日に実施したダイヤ改正における列車設定を基本としつつ、お客さまからの要望及び利用状況、外部環境の変化等を踏まえた調査・分析を行うことで、お客さまのニーズに即した運行ダイヤに見直していきます。

また、県及び沿線市町と協力しながら、地域の賑わい創出及び鉄道利用の拡大を図ります。

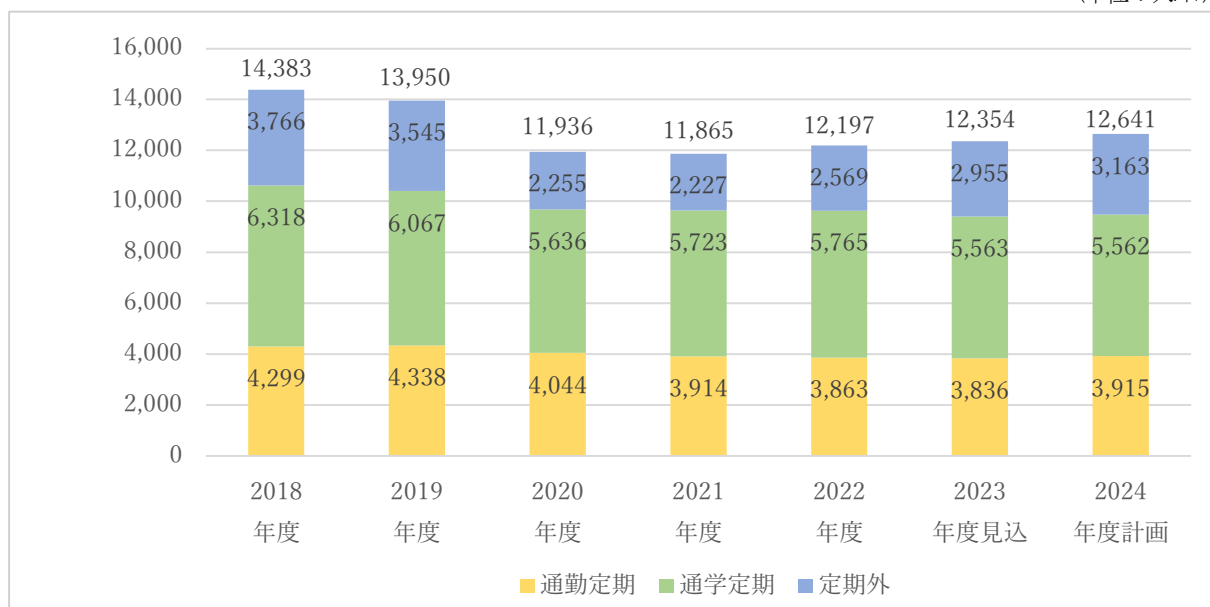
(2) 1日当たりの輸送人員の推移と計画

(単位：人/日)

	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度見込	2024年度計画
通勤定期	4,299	4,338	4,044	3,914	3,863	3,836	3,915
通学定期	6,318	6,067	5,636	5,723	5,765	5,563	5,562
定期外	3,766	3,545	2,255	2,227	2,569	2,955	3,163
合計	14,383	13,950	11,936	11,865	12,197	12,354	12,641

※端数処理の関係で、合計が合致しない場合がある。

(単位：人/日)



3. 収支計画

(1) 基本方針

安全・安定輸送の確保を第一に、今後の取り巻く環境の変化に柔軟に対応しながら、一層の収支改善に取り組むことにより、持続的な経営基盤の構築を図ってまいります。

また、更なる成長・発展に向け、社員一人ひとりがチャレンジ精神をもち、関係機関や地域と連携・協働しながら、積極的に鉄道の利用促進に取り組んでまいります。

(2) 主な内容

県・沿線市町による運行支援のための交付金(300,000千円)は、営業外収益に計上しております。また、2022年8月に発生した大雨災害による工事は、2023年度で完了しており、2024年度は補助金等の収入(139,633千円)が減少することから、当期損益は大幅に減益となりますが、27,917千円の黒字となる見通しです。

(3) 収支計画一覧

2024年度収支計画

【概要】
<p>■営業損益 ▲297,507千円 (2023年度決算見通し比：35,265千円、2022年度決算比：112,632千円)</p> <p>営業収入は、コロナ禍からの人流の回復や利用促進の取組等により旅客運輸収入が増加(21,080千円)する一方、関連事業の終了に伴う商品売上の減少や線路使用料収入の減少等により、2023年度決算見通し比で▲35,243千円の減収。</p> <p>営業費は、電力費の高止まりや物価高騰の影響がある中、業務費や修繕経費の削減を進めることにより、2023年度決算見通し比で▲70,508千円の減。</p> <p>営業損益は、上記のとおり営業収入の減収を上回るコスト削減を進めることにより、2023年度決算見通し比で35,265千円の増益。</p>
<p>■当期損益 27,917千円 (2023年度決算見通し比：▲139,103千円、2022年度決算比：98,924千円)</p> <p>当期損益は、県・沿線市町による経営安定化対策交付金(300,000千円)を2023年度と同様に営業外収益に計上した一方、2022年8月に発生した大雨災害による補助金収入等の特別利益(139,633千円)がなくなることから、2023年度決算見通し比で▲139,103千円の減益となるが、27,917千円の黒字を確保できる見通し。</p>

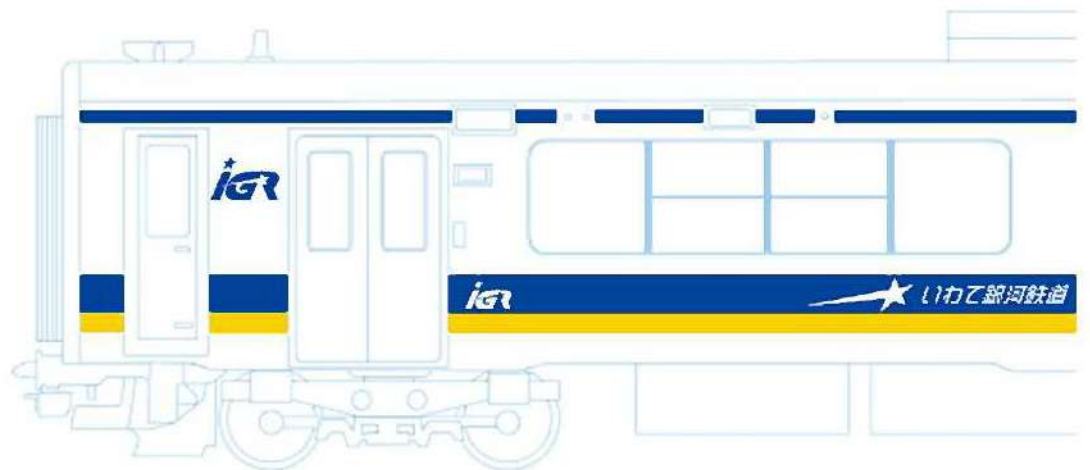
(単位：千円、税抜)

項目	2024年度 収支計画 A	2023年度 決算見通し B	増減 C (A-B)	摘要	2022年度 決算 D
営業収入	4,128,957	4,164,200	▲ 35,243		3,938,592
旅客運輸収入	1,073,100	1,052,020	21,080	2018年度の約85%を想定	972,778
線路使用料収入	2,858,462	2,897,484	▲ 39,022		2,617,490
運輸雑収 関連事業収入 商品売上	197,395	214,696	▲ 17,301	関連事業の見直しによる商品売上等の減	348,324
営業費	4,426,464	4,496,972	▲ 70,508		4,348,731
人件費	1,078,666	1,065,596	13,070		1,098,911
業務費	768,714	814,332	▲ 45,618	・関連事業の見直しによる商品仕入等の減 ・各種経費の削減による減	820,976
修繕経費	2,019,483	2,069,597	▲ 50,114	修繕計画等の見直しによる減	1,933,048
諸税	165,025	162,883	2,142		123,600
減価償却費	394,576	384,564	10,012		372,196
営業損益	▲ 297,507	▲ 332,772	35,265		▲ 410,139
営業外収益	318,392	333,805	▲ 15,413	いわて銀河鉄道経営安定化対策交付金 (300,000千円)	432,308
営業外費用	18,837	21,680	▲ 2,843	支払利息の減	15,927
経常損益	2,048	▲ 20,647	22,695		6,242
特別利益	169,537	296,281	▲ 126,744	2023年度大雨災害補助金・保険金収入の減 (▲139,633千円)	412,597
特別損失	133,357	96,531	36,826		466,901
税引前当期損益	38,228	179,103	▲ 140,875		▲ 48,061
法人税等	10,310	12,083	▲ 1,773		22,946
当期損益	27,917	167,020	▲ 139,103		▲ 71,007

※千円未満端数処理の関係で、各項目の合計と合致しない場合がある。



アクションプラン2024



IGRいわて銀河鉄道株式会社

はじめに

『経営ビジョン(2023～2032)』、『中期経営計画(2023～2027)』の考え方に即した今年度の具体的な計画が、ここで紹介する『アクションプラン 2024』です。

前年度は、2023 年度策定の『経営ビジョン(2023～2032)』及び『中期経営計画(前期:2023～2027)』がスタートした年度であり、これまでの取組を基により成長していくための新たな一步を踏み出す年でもありました。2023 年度は、新型コロナウイルス感染症の5類へ移行して、日常が少しずつ戻り始めた年ではありましたが、生活様式の変更や人口減少の進展により、旅客運輸収入はコロナ禍前の水準には戻っておらず、我々を取り巻く環境は依然厳しい状況にあります。

こうした状況の中で、2024 年度は『経営ビジョン(2023～2032)』の 2 年目として、より強固な会社としての基盤を築きあげていきます。地域に根差した鉄道会社として、「将来にわたり地域の足を守り続ける」という不変の使命を果たすべく、『中期経営計画(前期:2023～2027)』に掲げる 6 つの重点項目を軸に、目標の達成と諸課題の解決に向けて事業を推進します。四半期ごとに進捗状況を確認し、計画を見直し軌道修正していくことによって、取組をより確実なものにしていきます。(この要約版は、主なものを抜粋したものです。)

■ 経営理念

人を 地域を 未来へつなぐ、かけがえのない鉄道をめざします

■ 経営目標

I. 【信頼される鉄道】安全・安定を第一に、安心して利用できる鉄道であり続けます

鉄道の根幹である安全・安定輸送を確保するため、計画的な設備投資と維持修繕を実施します。また、地域の皆様への安全啓発活動を推進するとともに、異常時対応訓練や技能訓練を実施し、近年の頻発化・激甚化している災害への対応力の強化を図ります。開業以来の重大鉄道事故「ゼロ」を継続し、信頼される鉄道として安全・安定を第一に、安心して利用できる鉄道であり続けます。

II. 【元気な地域】暮らしやすく、にぎわいのある地域づくりに貢献します

鉄道の利用実態やお客さまの声に基づき、より利用しやすい列車ダイヤを目指すとともに、ニーズに即した企画きっぷ・割引きっぷの造成、リアルタイムでの運行情報の配信による利便性の向上により、鉄道の利用促進を図ります。また、新型コロナウイルス感染症の5類への移行に伴い、人流が回復傾向にあります。IGRパートナーズ会や地域の関係機関と連携・協働し、鉄道の利活用を通じて地域の活性化に貢献するとともに、沿線地域の皆様のマイレール意識の醸成を図ります。

III. 【挑戦する組織】常にチャレンジ精神をもち、成長する企業をめざします

会社を取り巻く環境の変化に柔軟に対応しつつ、鉄道の利用促進をより積極的に行い、収入確保に向けた取組と、コスト削減に向けた取組を推進し、持続的な経営に向けた強固な財務基盤を構築します。また、社員一人ひとりが常にチャレンジ精神をもち、社内公募制度などを通じて、新たなアイデアの提案や技術を取り入れることで、絶えず前向きに挑戦し、成長し続ける企業風土づくりを進めます。

I.【信頼される鉄道】安全・安定を第一に、安心して利用できる鉄道であり続けます

◆重点項目 1. 【安全・安定輸送の確保】

1-1. 重大鉄道事故「ゼロ」の継続

運輸安全マネジメントやリスクマネジメントの強化、多客輸送期間前の安全総点検の実施などを通じて、安全意識の深化・高度化を図り、重大鉄道事故「ゼロ」を継続します。

- ① 運輸安全マネジメント制度に基づいた運輸安全内部監査の実施
- ② 多客輸送期間前の安全総点検の実施
- ③ 鹿笛の効果検証及び動物との衝撃事象検証
- ④ 「ヒヤリ・ハット」など、収集した事象の分析、安全推進委員会などで対策を検討・実施

1-2. 鉄道施設や車両の適切な維持管理と更新

老朽化が進む鉄道施設や車両の適切な維持管理・更新を計画的に実施することにより、鉄道施設の安全及び車両の安定運行を確保し、信頼性の向上を図ります。

- ① 鉄道施設や車両の定期的な検修
- ② 鉄道施設や車両の計画的な更新・維持管理（指令システムの更新や、車両機器の取替、ロングレール交換、電気踏切しゃ断機取替、電柱取替など）の実施

1-3. 異常時における対応力・即応力の強化

激甚化している自然災害や鉄道テロ等緊急事案に迅速に対応できるよう、関係機関と連携しながら実車運転訓練や防災訓練などを実施するとともに、必要に応じて計画やマニュアル等の見直しを行い、異常時における対応力・即応力の強化を図ります。

- ① 実車運転訓練会の実施
- ② 異常時対応訓練の実施並びに付随するマニュアルの見直し、改定
- ③ 関係機関との連携強化（事故・テロ対応を目的とした警察、消防との合同訓練など）
- ④ 他社主催の異常時対応訓練への参加

1-4. 事故防止・安全啓発活動による安全意識の向上

春・秋の全国交通安全運動に併せた踏切事故防止運動や、小学校等での鉄道安全教室など、事故防止・安全啓発活動を実施し、沿線地域の皆様の安全意識の向上を図ります。

- ① 踏切事故防止運動の実施
- ② 安全啓発活動情報の積極的な発信



客席モケット更新



【一戸町】実車運転訓練会（乗客誘導）



【岩手町】警察との合同訓練（不審者対応）



【盛岡市】踏切事故防止運動（境田川原踏切）

Ⅱ.【元気な地域】暮らしやすく、にぎわいのある地域づくりに貢献します

◆重点項目 2. 【便利な鉄道】

<p>2-1. 利用しやすい列車ダイヤへの見直し</p> <p>鉄道の利用実態調査やお客さまの声に基づき、他の公共交通機関との接続性の向上や乗継の解消を図るなど、より利用しやすい列車ダイヤをめざします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用実態調査の実施 ② お客さまの声の収集・分析 ③ ダイヤ改正調整会議
<p>2-2. 利用促進の強化</p> <p>お客さまのニーズに即した企画きっぷ・割引きっぷの造成による新規需要の掘り起こしや、シームレスな移動を可能とするMaaS等の新たなモビリティサービスの提供、リアルタイムでの運行情報の発信による利便性の向上などにより、鉄道の利用促進を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 新規企画きっぷの造成 ② リアルタイム運行情報配信システムによる情報提供のブラッシュアップ ③ いわて銀河鉄道利用促進協議会など、関係機関との連携 ④ ホームページやSNSを活用し、IGRのイベント情報や地域のイベント情報などの発信
<p>2-3. キャッシュレスな乗車システムの導入に向けた検討</p> <p>ICカードやスマートフォンなどを用いたキャッシュレスな乗車システムの導入に向け、利便性の向上と合わせて、収益面やコスト面からも引き続き検討を進めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① キャッシュレス乗車システムの情報収集及び導入検討 ② 企画定期券のデジタル化検討
<p>2-4. 駅や車両の快適な環境の整備</p> <p>お客さまの声をはじめとしたサービス向上に資する情報を社内で共有し、適時適切に対応・改善を図るとともに、より快適にご利用いただけるよう、駅や車両の利用環境の整備に努めます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 駅や車両の利用環境改善 ② 駅設備点検や巡視の実施と、改善に向けての意見交換会の実施 ③ 駅設備の改良計画の策定・実施

◆重点項目 3. 【地域との協働とにぎわいの創出】

<p>3-1. 多彩なイベントやツアーと情報発信による地域のにぎわい創出</p> <p>多彩なイベントの開催や、地域と連携した沿線への着地型ツアーの実施などを通じ、地域のにぎわいを創出するとともに、ホームページやSNSを活用し、沿線地域の魅力ある情報を発信することにより、交流人口の拡大を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 沿線への誘客イベント・ツアーの企画と開催（銀河鉄道まつりなど） ② 地域イベントへの参加・参画 ③ ホームページやSNSを活用し、IGRのイベント情報や地域のイベント情報などの発信【再掲】
<p>3-2. 地域の活性化とマイレール意識の醸成</p> <p>IGRパートナーズ会や地域の関係機関と連携・協働し、様々な事業を行うことにより、鉄道の利活用を通じた地域の活性化や、沿線の方々のマイレール意識の醸成を図ります。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① IGRパートナーズ会や関係機関と連携・協働した事業の企画提案と実施 ② ファンクラブ会員に向けた新コンテンツの企画と実施
<p>3-3. 駅を中心としたまちづくりへの貢献</p> <p>県・沿線市町による公共交通ネットワークの形成や新駅の設置などの「駅を中心としたまちづくり」に、積極的に協力・貢献します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ① 関係機関と連携のもと、駅舎改良・新駅設置の検討 ② 沿線市町の公共交通計画策定への参画

Ⅲ.【挑戦する組織】常にチャレンジ精神をもち、成長する企業をめざします

◆重点項目 4. 【経営基盤の確立】

4-1. 収支改善に向けた取組の強化

社員一人ひとりが新たな視点やこれまで以上のコスト意識をもち、利便性の向上や利用促進による需要創出により、安定的な収入の確保を図るとともに、徹底的なコスト削減に向けた取組を進めることにより、さらなる収支改善に取り組んでいきます。

- ① 不要設備・低稼働設備を撤去し、設備のスリム化を実施
- ② 設備の長寿命化・省メンテナンス化に資する工事の実施(ロングレール交換・橋梁の重防食塗装・照明のLED化など)
- ③ 社内公募制度で業務改善や収支改善・コスト削減に資する取組の提案・実施
- ④ DX化による業務改善の推進
- ⑤ 運賃の見直し検討
- ⑥ 遊休地の有効活用による増収(売却・賃貸の検討含む)
- ⑦ 鉄道施設を活用した広告スペースの効果的な運用の実施

4-2. 持続的な経営が可能となる財務基盤の構築

全社一丸となり、最大限の経営改善を推し進めるとともに、国や県・沿線市町からもご支援・ご協力をいただきながら、安定的な事業運営と継続的な設備投資が可能となるよう、財務体質の改善を図り、持続的な経営に向けた財務基盤を構築します。

- ① 高いコスト意識を持った予算策定と適切な決算管理
- ② 経営状況を踏まえた設備投資計画の策定
- ③ 各種補助制度を最大限活用し、各事業を推進
- ④ 国・県・沿線市町など、関係機関との連携・協議や要請活動の実施



【盛岡市】踏切装置設定作業(馬頭踏切)



ヤマとなる研修
(社内公募制度で選考された取組の実施検討)



【盛岡市】銀河鉄道まつり(好摩駅)



【滝沢市】地元保育園の園児と七夕装飾(菓子駅)

◆重点項目 5. 【持続的な成長】

<p>5-1. 絶えず前向きに挑戦し、成長し続ける企業風土づくり</p> <p>社内公募制度などにより、社員のチャレンジ精神の向上を図りながら、新たなアイデアや技術を取り入れることで、さらなる成長・発展につなげていく好循環を作り出すことにより、絶えず前向きに挑戦し、成長し続ける企業風土づくりを進めます。</p>	<p>① 社内公募制度で業務改善や収支改善・コスト削減に資する取組の提案・実施【再掲】</p> <p>② DX化による業務改善の推進【再掲】</p>
<p>5-2. 外部環境の変化に迅速かつ的確に対応できる組織体制の整備</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大やDXの推進、少子高齢化の進展など、急速かつ急激な外部環境の変化にも迅速かつ的確に対応できる組織であり続けられるよう、組織・人員体制の不断の見直しを進めます。</p>	<p>① 組織・事業の不断の見直しによる効率的な業務執行体制の構築</p>
<p>5-3. 働きやすい職場づくりやワークライフバランスの推進</p> <p>働きやすい職場づくりやワークライフバランスを推進し、社員の満足度やエンゲージメントを高めることにより、生産性の向上を図ります。</p>	<p>① DX化による業務改善の推進【再掲】</p> <p>② 執務環境・福利厚生の見直し検討</p>

◆重点項目 6. 【人材の確保・育成】

<p>6-1. 研修の充実・強化</p> <p>持続的に成長する組織であり続けられるよう、社員の職務能力向上に向け、OJTや階層別研修などの社内外の研修の充実・強化を図り、次代を担い組織を牽引していく人材を育成します。</p>	<p>① 人材育成方針策定</p> <p>② 新任階層別研修の実施</p> <p>③ ヤマとなる研修の実施</p> <p>④ 労務管理研修の実施</p> <p>⑤ コンプライアンス研修の実施 など</p>
<p>6-2. 安全・安定運行に関する技術力や利用者サービスの向上</p> <p>安全・安定運行を確保するための専門的な技術や知見の習得を促進するとともに、お客さまに快適にご利用いただけるよう、接遇研修等によりサービス・スキルの向上を図ります。</p>	<p>① 技術勉強会や若手技能訓練会の実施</p> <p>② 事故防止検討会の実施</p> <p>③ 社外の技術研修などへの参加</p> <p>④ 運転取扱い訓練の実施</p> <p>⑤ バリアフリー研修・接遇研修の実施 など</p>
<p>6-3. きめ細かな採用活動</p> <p>新卒採用イベントへの参加やインターンシップの実施、多様な採用方法の導入など、きめ細かな採用活動を行うことにより、将来を担う優秀な人材の確保に努めます。</p>	<p>① 適時適切な採用活動の実施 (新卒採用イベント・会社説明会への参加、U・Iターン採用・経験者採用など)</p> <p>② インターンシップの受け入れ</p>

2023年4月～2024年1月の輸送概況について

◇ 輸送人員

【単位：人/日】

	2023年度	2022年度	増減	対比	2018年度	増減	対比
定 期	9,693	9,844	△ 151	98%	10,832	△ 1,139	89%
通 勤	3,916	3,847	69	102%	4,281	△ 365	91%
通 学	5,777	5,997	△ 220	96%	6,552	△ 775	88%
定期外	2,882	2,504	378	115%	3,754	△ 872	77%
合 計	12,575	12,347	228	102%	14,586	△ 2,011	86%

(項目ごとに四捨五入のため、合計しても合わない場合がある)

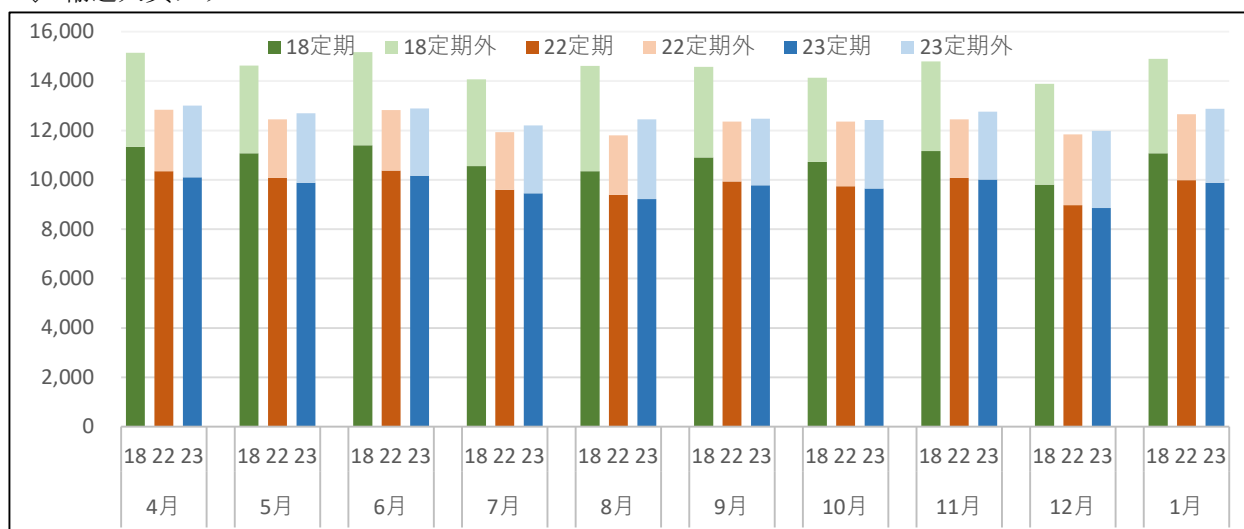
◇ 旅客運輸収入

【単位：百万円】

	2023年度	2022年度	増減	対比	2018年度	増減	対比
定 期	432	435	△ 3	99%	497	△ 65	87%
通 勤	222	218	4	102%	253	△ 31	88%
通 学	210	217	△ 7	97%	244	△ 34	86%
定期外	446	378	68	118%	562	△ 116	79%
合 計	878	813	65	108%	1,059	△ 181	83%

(券種ごとの統計数値のため、決算数値とは異なる)

◇ 輸送人員グラフ



◇ 概況（輸送人員）

【定期】

コロナ禍での交通手段の変更や沿線の人口減少、少子化等の影響はあるものの、概ね2022年度比と同程度（98%）、2018年度比で約11ポイント減（89%）で推移しており、傾向に大きな変化はない。

【定期外】

新型コロナによる行動制限も無く、年末年始も帰省利用が多くみられたことから、2022年度比では15ポイント増加している（115%）。2018年度比では、コロナ禍前までの回復には至っていない（77%）ものの、2022年度同時期の2018年度比（67%）からは10ポイント増加している。

利用促進及び地域との連携

1. 令和5年度「しあわせな予感♥いわて冬旅キャンペーン」冬季観光商品造成等支援事業



- 1月20日・3月2日（一戸町）
- 2月1日～3月8日（岩手町）
- 3月26日～3月28日（二戸市・一戸町）

御所野遺跡を散策する日帰りツアー（一戸町）、移動型宿泊施設「モビリティコート岩手」に泊まる2泊3日の宿泊パック（岩手町）、金田一温泉郷散歩やカーリング体験等の2泊3日のツアー（二戸市）を企画・発売しました。

2. ぎんがマルシェ みんな大好き！パン列車



【いわて銀河鉄道利用促進協議会事業】

- 1月21日

列車内で沿線および近郊の6店舗のパン屋さんに出店いただき、自慢のパンを購入できる臨時快速列車“ぎんがマルシェ みんな大好き！パン列車”を運行しました。220名を超えるお客さまにご乗車いただき、用意したパンが全て売り切れるほどの大盛況でした。

3. 岩手町地域商社「一般社団法人つなぐ・いわてまち」への設立参画



- 2月1日

岩手町が「外貨を稼ぎ、人をつなぐ」をキャッチフレーズに設立した一般社団法人「つなぐ・いわてまち」に、岩手町、岩手町商工会、岩手銀行、北日本銀行、東北銀行と並んで当社も発起人（社員）として参画しました。

地元経済人が理事を務め、ふるさと納税拡大、起業・創業支援、観光・交流人口推進の3本柱の事業に取り組むこととしています。

4. とっておきグルメ♪くずまき鍋&ワイン モニターツアー



- 2月11日・24日・3月9日

葛巻町ならではの食や体験を盛り込んだ日帰りモニターツアーを開催しました。

これは、くずまき観光地域づくり協議会の事業を受託し、当社が企画・実施したものです。八戸方面からも多くの申込みをいただき、即日満席になりました。

5. IGRカフェトレイン・スイーツ列車 【いわて銀河鉄道利用促進協議会事業】



■ 2月25日

沿線のスイーツ6店舗から各店自慢のスイーツとコーヒーを列車内で召し上がっていただきました。満席となる計56名にご参加いただき、途中の停車駅ではスイーツ販売会やお餅の振舞い、伝統芸能の披露などのイベントも開催しました。

6. 2023年度 IGR パートナーズ会 総会・交流会



■ 3月2日

例年開催している総会を、今年度は滝沢市の滝沢ふるさと交流館を会場に開催しました。

総会に先立ち、「馬の郷・滝沢」を巡るプチツアーを企画し、ご参加いただいた皆様の交流の場となりました。

【会員数】53団体（2024年2月現在）

7. 「ひなび」で行くのんびり楽しむ北いわてと南あおもりの鉄道旅



■ 3月20日

東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社、青い森鉄道株式会社、岩手県北広域振興局、いわて銀河鉄道利用促進協議会にご協力いただき、観光列車「ひなび」で行く盛岡～八戸間の企画ツアーを実施しました。追加発売分を含め、計105名のお客さまに、当社線に初めて乗り入れた「ひなび」の旅を楽しんでいただきました。

8. “奥中山高原 SNOW*PASS”



■ 12月16日～3月31日

例年発売していた「奥中山高原スキーきつぷ」をリニューアルしました。フルセット1日レンタルを追加し、手ぶらで楽しめるという新たなコンセプトに、SNS広告等のプロモーションを組み合わせたことで、初めて利用したお客さまから「充実した内容でとても便利」との声が届くなど、ご好評をいただいています。